

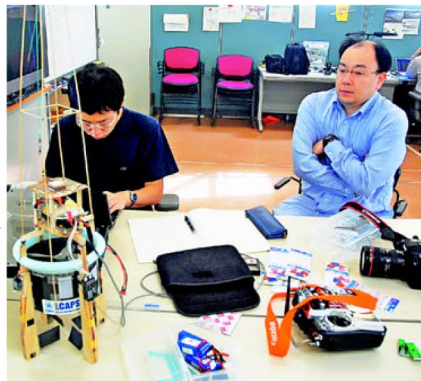
### JAXA 垂直離着陸2機

## 飛行性能は？

### 大樹で実験スタート

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は8日、多目的航空公園で垂直離着陸(VTOL)無人航空機の実験を開始した。大樹での実験は昨年に続き2年目。滑走路がない場所でも離着陸できる機体として災害時などに活躍が期待され、今回は新

たにテイルシッター型と「ダクトファン型」の2機の飛行性能を確認する。実験グループは、JAXA 研究開発本部飛行技術研究センター 先進無人機セクションの研究者ら5人で構成。今回の2機については東大も開発に加わっている。



ダクトファン型VTOL機の機体をチェックする研究者ら

テイルシッター型は全長全幅各1.4m、重量2.4kgで自動でも手動でも飛行可能。飛行機2機を横に並べたような外観で、2機の先端にプロペラが付き、離着陸の際に機体が垂直になる。通常では機体は起き上がると先速するが、

テイルシッター型はプロペラの推力で飛行を維持する。実験では同公園滑走路で時速70kmから同10kmほどまで減速飛行させ、データを取得する。ダクトファン型は高さ35cm、直径15cm、重量600gの筒型で自律飛行のみ。筒の内部にプロペラがあり、上部から空気を吸い込むことで飛行する。実験では全長3mほどの気球を高度10mまで上昇させ、気球につり下げる形で飛行を繰り返す。同型の屋外での実験は今回が初めて。実験は8、9日の3日間。初日は午前中、2機の機体のチェックなどを行った。同セクションの久保大輔さんは「大樹は場所が広く、データを非常に取りやすい」と話している。

(佐藤圭史)